

令和6年度第5回和歌山県最低賃金専門部会

議事録

開催日時 開催場所	令和6年8月2日（金） 和歌山労働総合庁舎6階会議室	9時57分から 10時45分まで	
出席状況	公益を代表する委員 労働者を代表する委員 使用者を代表する委員	定数3名 定数3名 定数3名	出席2名 出席3名 出席3名

○廣谷部会長

ではただ今から第5回和歌山県最低賃金専門部会を開催いたします。

初めに本日の委員の出席状況、会議の成立状況などについて、事務局から報告をお願いします。

○事務局（谷本）

はい。座って説明させていただきます。

委員9名中、公益代表委員2名、労働者側委員3名、使用者側委員3名に御出席をいただいております。各代表の3分の1以上、全体の3分の2以上の出席であり、本会議が成立していることを報告いたします。また本会議は原則公開となっており、傍聴の公示を行いました。傍聴希望者はございませんでした。

以上、御報告いたします。

続きまして資料の御説明をさせていただきたいと思っております。

本日お配りいたしました資料は、昨日この場で使用者側児玉委員から御要望いただいたものでございます。それでは説明をさせていただきます。

昨日の専門部会で御要望のあった事項としましては二つあったと思っております。一つは、和歌山県、奈良県、大阪府の過去40年分の最低賃金額の推移について、二つ目は、和歌山県、奈良県、大阪府の直近の一人当たりのGDP、国内総生産値であったと思っております。

まず一つ目の御要望についてです。資料1を御覧ください。

和歌山県、奈良県、大阪府の過去40年分の最低賃金額の推移につきまして、各府県労働局においてホームページに公開されています各年度の最低賃金額と、奈良県と和歌山県との比較額を取りまとめたものになっています。和歌山県と奈良県との比較におきましては、昭和59年度から平成3年度までは50円から3円の幅で和歌山県が奈良県を上回っており、平成4年度には同額となり、平成5年度以降は2円から9円の幅で奈良県が和歌山県を上回っていることが分かります。

次に二つ目の御要望についてです。資料2を御覧ください。

和歌山県、奈良県、大阪府の直近の一人当たりのGDP、国内総生産値について、各府県統計部署においてホームページに公開されています統計データを基に取りまとめたものとなっています。直近のデータとしましては令和3年度のものとなります。一人当たりのGDP値につきましては、府県の総生産額を住基台帳人口数、令和3年1月1日現在で除した額となっています。和歌山県の一人当たりのGDP値は398万5,235円、奈良県は280万894円、大阪府は467万4,498円となっています。

以上、昨日追加で御要望があった事項に係る資料の説明とさせていただきます。

○廣谷部会長

はい。それでは議題1、金額審議に入りたいと思いますが、その前に事務局から他の府県の状況など参考になる情報がありましたらお願いをします。

○事務局（谷本）

はい。現在におきましてはいくつかの局につきまして、専門部会での結審をした所があると聞いてはおります。ただあの詳細につきましては今のところちょっと申し上げられる状況にはございませんのでよろしくお願いたします。

○廣谷部会長

はい。では労働者側、使用者側もそれぞれの所属する組織の中で情報収集や意見集約もされたかと思いますが、参考になる情報や追加の御意見などございましたらお伺いしたいと思います。

まずは労働者側はいかがでしょうか。

○濱地委員

はい。先ほど事務局からお話がありましたように、数県、専門部会で結審されるとともに、Aランクの大阪並びに埼玉が50円という水準で公益見解が示されたと聞いているところでございます。後に、労側の新たな水準につきましては本日現在で持ち合わせてございません。

以上です。

○廣谷部会長

はい。ありがとうございます。

続いて使用者側はいかがでしょうか。

○児玉委員

はい。えーと今の労側2府県の御案内よりも詳しい事情が把握できておりません。まあ同じような今までの私どもが提示したような考え方が、各府県でもまあ同じように提案をされているというふうには把握をしております。

○廣谷部会長

はい。ありがとうございました。

それでは金額審議に入りたいと思います。

前は、公労、公使の個別審議も行いまして、労働者側が55円プラスの984円、使用者側が31円プラスの960円ということで、それぞれ金額提示をいただきました。前回の審議内容を踏まえて組織内で改めて御検討等あったかと思いますがいかがでしょうか。

事前に協議の時間が必要であれば取りますし、もうここで無回答ということであれば。

○児玉委員

ちょっと協議の時間をいただけたら。

○廣谷部会長

あっ、はい。

労働者側はいかがでしょうか。

○濱地委員

はい。今現在結構です。

○廣谷部会長

よろしいですか。じゃあこの場で何か御意見というのはあるでしょうか。労働者側から。

○濱地委員

特にございません。

○廣谷部会長

ないですか。

○濱地委員

はい。

○廣谷部会長

では使用者側の方はちょっと時間。

○児玉委員

時間は10分程度で。

○廣谷部会長

はい。また10分程度で。はい。じゃあお願いします。

〈使用者側協議〉

○廣谷部会長

はい。では使用者側よろしくお願いします。

○児玉委員

はい。使用者側です。各委員と種々検討しましたところ、確か和歌山県経営者協会の方で春季労使交渉の、いわゆる春闘の数字っていうのがございます。引上げ率になりますけれども、4.31、これが経営者協会の方で今年の春のですね、賃上げ状況ということで、まあ昨年が3.08だったわけですが、今年は皆さん頑張ったところで4.31%という数字をいただいております。これを最低賃金に当てはめると、例のあの影響率の関係表というところの表を見ていただくと分かりやすいんですが、プラス40円、969円というのが4.31%の引上げ率。ちょうどぴったりの数字が出ております。ちなみに影響率の方が20.5ということで20%を超えてきているという数字になってます。まああの繰り返しになりますけれども、使用者側、経営者側が4%を超えるっていうのはですね、ここ近年ではない。それが3%に、更に超えて4%になってるわけですが、その内容を聴きますとやはり相当無理をしてですね、業績がいいからっていうことではなくて、そうですね人員の確保、採用の面又はその定着の面、そういったことを考えて無理をしながら賃上げをせざるを得んと。中にはですね、最低賃金が昨年4%台、まあ今年は5%ですけども、この春の時点では4%台ということだったので、皆さんのところはやっぱり賃上げについても4%をっていうような思いだということも、その内容も聴きますと、決して好業績、業績が良くても4%アップしているというよりは、やむなく4%を上げてきたというふうには聴いているところではあります。

以上です。

○廣谷部会長

はい。そうしましたら使用者側からの金額の提示をいただき、これについて労働者側から何か。

○濱地委員

はい。特にございません。

○廣谷部会長

ございませんか。

そしたらえーとこの金額について、新たなこれ以上の御意見とか御質問等はありませんか。今日頂いた資料、せっかく頂きましたので、これについてのそれぞれの認識とか検討とかクエスチョンとか、そういうものあればと思うんですけれども。

○児玉委員

はい。使用者側の方からお願いした資料ですのでありがとうございました。ちょっとまあ頂く前にこんなことになってるのかなあっていうところと、そうでもないのかなあっていうところを感想めいた話になりますけれども、まず大阪との比較、昭和59年からの数字をいただいておりますが、この時に確かに大阪と和歌山の差っていうのはあるにはありますが、今現在のように時間単価で135円の今差があると思いますけれども、この時はこれは日額ですよ。この3,564円と3,283円っていう。今ほどのその時間単価の差額はないかなと。

一方ではその奈良、和歌山の差が、和歌山が奈良を上回って50円がありますよと。これもまあどうなんですか時間単位、これ8で割ってるんですかね。この50円というのは8で割ってないと。

○事務局（谷本）

そういうことです。

○児玉委員

そのままの差し引きですね。

○事務局（谷本）

そういうことでございます。

○児玉委員

はい。まあこれをもし50円を8で割ったとしたら、6円とかのプラスってい

うことで。何が言いたいかという、大阪、奈良、和歌山の差っていうのはそれほどなかったのかなというふうに思います。ちょっとそのGDPの話が直近のと言いましたので直近の数字しかないので、昭和59年の数字がちょっと分かりませんが、そんなに各府県のところで最低賃金の差がなかったのではないのかなというふうに思うところです。何を言いたいかという、そのA、B、C、D、当時A、B、C、Dランキングがあって、昨年A、B、C三つに分かれましたが、目安委員会自体のあえてですね、ランク分けをすることによって、そのAランクを高めにして、そのDランクを低めにしてっていう、そういうのがずっと長年続いたことによって賃金格差ができてきたのか。経済が都市と地方との差で段々広がっていったので、それに連なって最低賃金も広がっていったのかっていう、その辺のことをもう少し分析する必要があるかなと。まあいずれにしても40年前にはそんなに差がなかったのが、今日差ができてきて、今格差は正をって話になってきていると思うんですが、その辺最低賃金の中の議論なのか、経済全体がそんなふうになってきたのかなという、ちょっとそんなことを考えたい一つです。

もう一つ大きなポイントが、奈良とのその違いの中で、平成3年から4年にかけてのところで、いわゆる奈良と和歌山との逆転現象が起こってきているということです。ちょっと昨日、平成6年っていう一つの節目ではないのかなと言ったのが94年、関西空港ですね。関西国際空港が開港したのが平成6年の94年、そこぐらいまでは和歌山元気だったかなと思ってたんですが、ちょっとそれよりも更に2年早くに和歌山県が奈良県と逆転をしていく。平成5年になりますけれども、ちょっとそういう時期なのかなというところだと思います。

えーとマイナス9円っていう時代が平成24年、2012年からしばらく続くわけですが、マイナス8、マイナス7ということで、少し奈良県さんとの差が縮まった時代があったなということも今回再認識をしたところです。

後追加で一人当たりのGDP、これまあ直接関係はないと思いますが、和歌山県、奈良県のその経済規模っていうことがここで示されているところだと思います。私の知るところでは和歌山県では日本製鉄さんのその存在ですね。いわゆる重厚長大であった産業構造が転換できてないと言われながらも、そういった重厚長大のところの業績が和歌山県経済を引っ張っていただいているという、あのちょっと中身はここでは示されておりませんが、まあそういった認識をしてるところです。まあ言わばベッドタウン的なその奈良県、大阪のベッドタウンっていうのと、まあ和歌山県は臨海工業地帯としての和歌山県の産業が県経済、まあ恐らく一人当たりで言ってみると実感はないかと思うんですが、数字的にはあの大きな数字が、奈良県よりも大きな数字が出てくるのかなというふうに捉えているところです。

はい。まあちょっと感想めいた話ですみません。

○廣谷部会長

はい。ありがとうございました。

この資料に関して他に御意見とかございますか。

〈意見等なし〉

○廣谷部会長

ではもう今日は金額の方については以上になるということによろしいでしょうか。

〈意見等なし〉

○廣谷部会長

では本日の審議はここまでということにさせていただきまして、次回に持ち越して審議を続けたいと思います。

○本庄委員

意見交換をちょっとさせていただけたらと思っているんですけども。

○廣谷部会長

使用者側と意見交換をさせていただけたらと思います。

〈公使意見交換〉

○廣谷部会長

お待たせしました。では本日の審議はここまでとして、次回また審議を続けたいと思います。

本来は今日で日程を消化ということだったんですけども、次回を8月5日月曜日の13時からということで開催したいと思いますのでよろしくお願ひします。

その他議題は特にございませんか。

○事務局（谷本）

はい。

○廣谷部会長

はい。ないようですので今日はこれであの本日の専門部会は終了とさせていただきます。

ありがとうございました。